

みなとが支える 私たちの暮らし life

Ports-
gateway
to the world

海上輸送の 主役・コンテナは “貨物のデパート”

およそ30年ほど前からはじまったコンテナ貨物輸送は“コンテナ革命”と言われるほど、物流システムを大きく変えるものでした。大量の荷物をスピーディーに運ぶことができるこの輸送システムは、やがて世界中に広まり、現在では海上輸送の主役として大活躍しています。

もちろん、コンテナ輸送はわが国の海上輸送においても主流であり、わが国の外国貿易定期貨物のうち、約95%はコンテナによって運ばれています。^{※1}

コンテナ輸送の長所は、貨物の積みおろしが一般貨物に比べ、格段に早いという点です。そのため、みなとに着いたコンテナ貨物は、すぐに仕分けされ、スムーズに国内の各市場に運び出されます。また、コンテナには冷却装置がついたものもあるので、生鮮食料品なども安全に運べます。

※1「数字でみる港湾2002」（2000年刊）



コンテナは“魔法の箱” 何でも入ります



コンテナは、鉄やアルミニウムでできた四角い箱にすぎません。しかし、この箱の中には大型コンピューターから野菜まで、ありとあらゆるものが詰め込まれ「コンテナに積めない荷物はない」とまでいわれています。貨物の包装を比較的簡単に済ませることができるので、雑貨などの運搬にも最適です。

コンテナの広さはタタミ18畳分

また、コンテナは世界共通のサイズで統一されているために、世界のどここの国でもスムーズに荷物の積みおろしを行なうことができます。ちなみに、40フィートコンテナはタタミにすると約18畳分の広さがあります。



大量の荷物を一度に運べます

世界共通のサイズで統一されているコンテナは、コンテナを運ぶ専用の船、コンテナ船で運ばれています。一度にたくさんのコンテナを運ぶことで、コンテナ1個当たりの輸送費用を安くすることができるため、コンテナ船は年々大型化しています。現在、最も大きいコンテナ船は20フィートコンテナを7,500個近く積むことができますが、コンテナ船の大型化に伴い、それに対応した水深の深い岸壁が必要になってきています。

コンテナ 輸送とは？ 荷物の積みおろしが簡単です

コンテナが開発される前は、船に積まれた貨物はフォークリフトや人の手によって積みおろしされていました。バラバラに積まれた貨物を少しずつ積みおろすため、荷役には人と時間が必要だったのです。しかし、コンテナは専用の機械で大量の貨物を積みおろすため、人数と時間を大きく削減することが可能で、現在では重さが30トン以上というコンテナを、わずか2分で積みおろしできます。

60時間 → 2分



資料:国土交通省港湾局調べ

みなとを支える人々② ガントリークレーンオペレーター

コンテナの出現によって、荷役に要する時間と人数を大きく削減することができましたが、これを可能にしたのは、コンテナを積みおろす専用のクレーンであり、それを操作するオペレーターです。地上より30m上空にある運転席からの操作により、早かつ確にコンテナを積みおろす荷役のプロフェッショナルです。

